

飯館村農業協同組合（JA飯館村）



代表理事組合長	志賀正男	役員数	16名
所在地	〒960-18 相馬郡飯館村 深谷字二本木前27-1	理事	12名（うち常勤 1名）
	☎0244-42-0121	監事	4名
設立年月日	昭和41年3月1日	職員数	60名（男49名 女11名）
		臨時	2名

I 地区の概況

当地区は阿武隈高地の北部中央に位置し、東は原町市・鹿島町、北は相馬市、西は霊山町・月館町・川俣町、南は浪江町にそれぞれ接している。全地域が花崗岩とその風化土からなる準平原状を成し、平地の標高は450mである。

総面積の83%が山林で、その50%が国有林である。北部に真野川、中南部に新田川の本支流が東流し、その流域に集落が開け米・畜産等が生産されている。

交通は、国道399号線が西部を北西から南に

走り、県道原町川俣線が中央を横断している。福島市に36km、原町市に21kmの距離にある。主要産業は農業である。農業の中心は稲作で、普通の年には全農業生産額の半分を占める。しかしながら、高冷地のため冷害を受け易く、このため古来より立地条件を生かした畜産に力を入れてきた。現在は、飯館牛の生産販売に鋭意奮闘中である。

田植踊が保存されておって県重要無形民俗文化財に指定されている。

II 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

当地区の農業の変遷は、冷害凶作との闘いの歴史といっても過言ではない。地形上では山間地帯としては平地が多く、また、平地は標高が450mの準高冷地であるが、夏季にオホーツク海の高気圧が優勢になると、いわゆる「やませ」が吹き込み、冷害を受けやすい地域でしばしば凶作に見舞われてきた。

藩政時代から戦中までは相馬山中郷馬産地として有名であったが、これも冷害対策であった。農業の近代化で農耕の機械化が進み農耕馬の需要が減退し、肉用牛と酪農経営に代わってきた。これからと言う時代になって、こんどは外国畜産物との新たな闘いと、産地間の競争も始まってきた。生産コストの低減と品質の向上、さらに販路の開拓拡大と難問・課題が多い。

稲作では、28、29年の凶作の後、耐冷品種の藤坂5号・チョウカイが導入され、保温折衷苗代を普及推進した。さらに畑苗代となり現在の機械植えとなった。食味の良い米が求められるようになり、品種はアキヒカリ等耐冷増収型から自主流通米として販売できるモチ米栽培に代わり、県のモチ米生産指定団地となっている。

野菜の導入は必ずしも順調ではなかったが、栽培技術の研修・雨よけ栽培施設・保鮮施設等の導入と相まって共同販売を確立し、準高冷地野菜・花卉としてようやく軌道に乗ってきた。

2 経営の推移

昭和41年3月、大館・飯曾の2農協が合併し飯館村農協として設立した。村一円の農協発足で組合員の農協に対する期待は大であった。組合員の求め、期待に応えるべき組織執行体制を確立し、役職員一体となり業務を開始した。

合併初期、組合員の営農と生活向上を最重点に農業再生産に満足を目指す施設取得、管理事務所の建設等年次計画でそれぞれ取得をし、増資

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総農家戸数 (戸)		1,356	1,551	1,507	1,428	1,290	1,185
うち 専業 (戸)		57	303	210	101	95	72
I種兼業 (戸)		1,029	1,072	1,043	874	539	242
II種兼業 (戸)		270	176	254	453	656	871
経営耕地面積 (ha)		1,339	1,810	1,721	2,140	2,336	2,183
うち 田 (ha)		745	858	899	1,252	1,304	1,259
畑 (ha)		495	874	756	801	970	884
樹園地 (ha)		89	78	65	87	62	41
収 穫 面 積	稲 (ha)	682	849	819	1,101	1,079	938
	麦類 (ha)	310	442	303	42	10	8
	野菜類 (ha)	91	113	96	118	147	146
	果実類 (ha)		2	2	1	3	2
	飼料用作物 (ha)		128		409	579	638
	たばこ (ha)	34	70	113	140	196	106
飼 育 頭 羽 数	乳用牛 (頭)	2	325	1,005	942	1,093	1,039
	肉用牛 (頭)	93	715	1,102	2,642	4,149	4,033
	馬 (頭)	986	612	249			
	豚 (頭)	63	82	103	515	232	3,077
	にわとり (千羽)	3	6	4	2	11	27
	ブロイラー (千羽)				75	358	808

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

の必要性から併せて、「農協出資1戸10万円必達運動」を45年から52年まで8年計画の実施、51年剰余金処分の方法、事業利用配当優先から出資配当優先に定款変更し、増資に対し理解を得て自己資本の造成を図った。

合併前2農協の主要勘定残高、購販売取扱高、財務等ほぼ同じで欠損金なく、少額積立金を持って合併した。合併時の貯金2億1500万円、貸付金1億4300万円、剰余金251万円、経済事業取扱高も少額であった。合併の効果は年毎に現れ各事業共に図表2の通り伸長した。44年9月より農協と組合員との意志疎通をはかる場として農協の日を設定、毎月組合員宅訪問を現在も継続実施、事業の伸長の一助にしている。

中山間地農業経営と冷害、水田転作面積拡大、

米市場開放、規制緩和による価格の低迷など農業経営、JAをめぐる環境厳しいこの地で、営農と生活をするための組合員の拠り所としてJA基盤の充実に努めている。

3 設立と合併の経過

(1) 農業協同組合の設立

JA飯館村の前身は、大館村農業協同組合、飯曾村農業協同組合、飯曾村比曾農業協同組合、石橋農業協同組合である。それぞれ昭和23年に設立された。大館村農協は農業会から農協へと理想的に村一円の農協として設立されたが、飯曾村では村内に飯曾村・飯曾村比曾・石橋の3農協が設立された。

図表4 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

項目		年度					
		30	40	41 (合併年度)	50	60	5
正組合員戸数(戸)		1,118	1,288	1,299	1,362	1,308	1,284
准組合員戸数(戸)		13	46	50	91	86	210
資 産	余 裕 金	10,024	108,766	139,598	628,070	2,748,944	4,088,983
	貸 出 金	21,384	143,023	176,022	746,148	3,041,471	4,165,880
	その他流動資産	13,344	43,982	60,106	641,805	567,061	1,330,218
	固 定 資 産	4,612	19,578	18,809	126,510	278,335	460,675
	外 部 出 資	1,651	4,199	5,075	32,662	93,008	135,883
負 債 及 び 資 本	貯 金	23,403	215,629	280,304	1,441,605	4,791,203	8,132,862
	借 入 金	24,773	55,193	58,348	341,381	1,016,759	356,942
	そ の 他 負 債	3,485	24,651	33,863	262,665	549,337	1,185,500
	出 資 金	8,264	20,860	25,663	111,914	216,790	219,861
	積 立 金		696	14	4,368	116,186	260,400
	剰 余 金	-8,910	2,519	1,418	13,262	38,544	26,074
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	74,255	309,413	449,955	1,428,929	2,427,816	1,434,741
	うち 米 穀	63,814	229,128	315,810	855,223	1,322,618	173,838
	青果物	1,886	8,671	13,630	142,787	322,896	299,257
	畜産物		54,534	71,317	335,291	710,609	875,267
	購 買 取 扱 高	22,975	110,427	118,516	723,549	1,378,531	1,625,033
	うち 生産資材	21,228	96,554	102,317	633,843	1,083,467	1,086,939
	生活資材	1,747	13,873	16,199	89,706	295,064	538,094
長期共済保有高		630	788	5,453	35,148	60,063	

(注) 合併以前は合併参加農協の合計 資料不足のため24年度は記載不可 30年度は石橋農協含まない

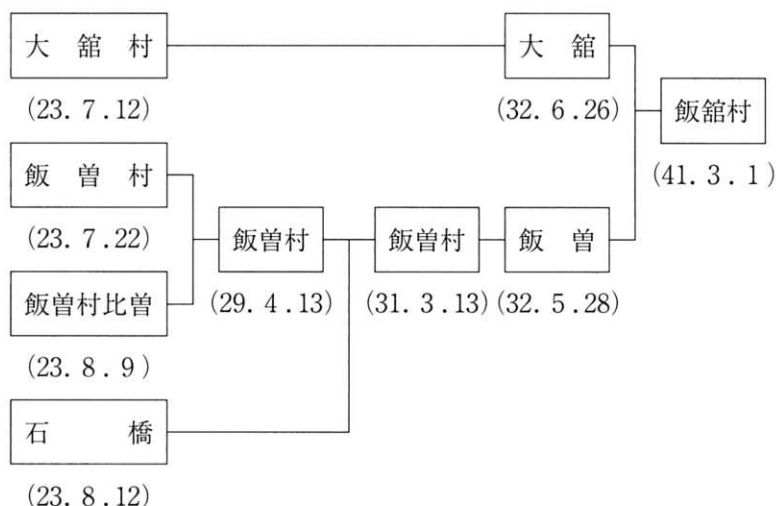
(2) 農協の再建と合併

畜産・養蚕組合等の統合

昭和23年農協発足当時は、物資不足で飯米を始め生活必需品は統制、戸別配給された時代で農家経営も農協経営も容易でなかった。農協の主な業務は、供出物の受入れ、主食配給、生産資材供給、木炭取扱等で、運営財源となる産駒は畜産組合、蚕繭は養蚕組合の取扱であり、飯曾村・比曾・石橋の3農協は小規模の上運営基盤も弱く窓口閉鎖寸前となった。

28・29年の冷害による営農資金の円滑貸付、村一円とする冷害対策を契機に合併機運が高まり当時の役員 노력により、29年飯曾村農協と飯曾村比曾農協が合併、31年に石橋農協を吸収合併した。29年には相双畜産組合、各養蚕組合が関係団体で協議を重ねてそれぞれの農協に統

図表3 合併等の経緯



図表4 合併参加農協の概要

合併年月日	組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
29. 4. 13	飯曾村	大谷 清	474	8	5
	飯曾村比曾	中島 好	85	6	3
31. 3. 13	飯曾村	星 吉雄	530	11	10
	石橋	相良 栄	91	5	4
41. 3. 1	大館	星 義継	704	12	14
	飯曾	菅野 正	650	14	14

合し、草野畜産組合は39年大館農協に合併した。

31年、大館・飯曾両農協は財務の健全化を図るため再建整備特別措置法に基づく指定を受け35年までの5か年整備計画書を作成し、中央会から長期駐在指導員を仰ぎ役職員一丸となって取り組んだ。しかし、31・32年の冷害から計画を変更し、37年度に完全達成し出資配当をした。

41年、当時の高橋市平村長が合併促進協議会長となって大館・飯曾両農協が合併して飯館村農業協同組合が設立された。

50年7月1日には大館開拓農協を吸収合併し、一村一農協となった。

(3) 合併の難問

合併する2農協の規模・財務内容等ほぼ同じく対等合併であるなど、組合員の意識感情から主たる事務所の位置決定で難航し、合併促進委員で数回にわたる協議の上、本所・支所と呼称せず管理事務所・事業所とに決め、主たる事務所の位置を村の中心地である伊丹沢字笹所沢519番地におき、旧2農協事務所を事業所とし本所機能である管理事務所は新築することにした。その間、管理事務所は事業所内に置き、1年交替で移動することした。

管理事務所の建設場所を村役場に隣接する深谷字二本木前に変更し、行政と経済団体との連携、村指定金融業務、組合員の利便性等考慮して44年に新築落成した。新事務所の一階は、農協管理事務所、二階は農業共済組合・農業改良普及所・食糧事

務所に貸し農業関係機関が入った総合事務所となり、組合員の利便性が図られた。

合併時の難問の組合員感情等は1～2年で自然に解消された。経営の合理化をはかるため草野事業所を47年に管理事務所に統合した。

4 冷害に強い畜産の導入

昭和30年前後の平均耕作面積は水田80a、畑40aと小規模で米づくりを中心に麦・葉たばこ・家畜（馬または牛）1～2頭の経営で、28・29年31・32年の冷害で甚大な被害をこうむり農家経済はもちろん、農協経営も大きな影響を受けた。

村・農協は予期しない被害防止策として家畜導入することを勧め、新農村建設・農業近代化制度活用導入を図ったのである。当時は選択的拡大と呼ばれた時代であるが、被害分散と家族労働を主体に複合経営を勧め、専門部署設置と獣医師・畜産担当職員による指導体制を充実、負債のない経営指導にあたった。

肉用牛は、農協主催のセリ市場を年6回開催し、飯館牛として1300頭が県内外に販売した他、生産販売一貫体制での肥育をし、飯館牛としてミートバンク宅配で県内外におくり好評を頂いている。また、第三セクターで興した飯館楽園ステーキハウスでの供給もしている。

酪農は、日産10tを生産。県酪連に出荷販売をしている。

5 生産・販売事業の推移

昭和41年当時、農家の換金作物は米・葉たばこ・家畜・一部野菜であった。農協事業収入は米の販売手数料と倉庫保管料が主であり、農家経済も農協経営も作況に支配されていた。

農家収入の増大を追求して、食味のよい耐冷品種の導入を図った。49年からは自主流通米として売るモチ米栽培に替え県モチ米生産団地の指定を受けている。

野菜では、大根・白菜・馬鈴薯等で大して収入がなかったが、合併以後営農台帳の作成と営農類型メニューを村・農協・普及所の三者で作成する等本格的指導体制で取り組み、1品目100万円販売を目標に推進し、部会活動・振興大会・生産共励会等開催して現在に至っている。いんげん・ほうれん草・加工トマト・チェリートマト・レタス・わさび等の栽培で大きな収入を得るようになった。

花卉栽培は小人数で個人販売であったが、50年頃より農協部会となり、グラジオラス・りんどう・トルコぎきょう等栽培し、1億円作物に発展してきている。立地条件を活かし高級品生産に取り組んでいる。

6 地域に根ざすJA経営

健全運営を図るため増資と剰余金の特別積立による自己資本の造成に努めている。各事業の推進は、組合員の所得向上と信頼で達成するという信念で役職員の教育と責任体制に基づき、営農と生活事業を重視して取り組んでいる。

平成元年より5年計画で、村の農業・生活・文化を高めることを求め組合員・役職員によるヨーロッパ諸国の農業方策・自給率・流通価格・生活・教育文化等海外研修を実施した。今後のJA・農家経営に役立つ財産となっている。

生産組合・農青連・婦人部を、農業振興・JA事業の進展・組合員の暮らしを支える組織と位置づけ、また、各生産部会は生産拡大を図り暮らしの向上組織として育成強化に努めている。

元年、地域JAの生活活動の拠点とする農畜

産物加工施設とAコープ店舗を併設取得。5年にミートプラザを併設し、3施設を有機的に結合して飯館牛の加工処理販売、学校米飯給食の炊飯、豆腐加工をしている。また、旅行センタ

ーの設置等により組合員の語らいの場と店舗購買の伸長に資している。

「歴史はいま飛躍のとき」をスローガンに掲げJ A 飯館は飛躍している。

Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
23年			合同会議（基本事項協議）
7.12	大館村農業協同組合設立	12.22	合併部落座談会（～26）（大館・飯曾）
7.22	飯曾村農業協同組合設立	12.26	合併予備契約締結
8.9	飯曾村比曾農業協同組合設立	12.27	合併臨時総会（大館可決）
8.12	石橋農業協同組合設立	41年	
26年		1.31	合併臨時総会再開（飯曾可決）
.	再建整備の指定を受ける（大館）	2.7	第1回設立委員会
29年		2.14	第2回設立委員会
4.13	飯曾村農協と飯曾村比曾農協が合併して飯曾村農業協同組合設立	3.1	飯館村農業協同組合設立
31年		12.3	産米4万俵達成祝
3.13	飯曾村農協が石橋農協を合併する	42年	
7.31	整備特別措置法の指定を受ける（大館・飯曾）	11.29	農業倉庫（飯樋）完成
9.30	大館村と飯曾村が合併して飯館村となる	43年	
32年		1.13	農協法公布20周年記念式典
5.28	飯曾農業協同組合と名称変更	産米5万9260俵祝	
6.26	大館農業協同組合と名称変更	1.27	酪農部会設立
35年		11.2	農業倉庫（深谷）完成
6.30	共済優績 全共連表彰（大館）	44年	
36年		3.31	稚蚕共同飼育所（大倉）完成
6.30	再建整備の目標達成（大館・飯曾）	3.31	農機具格納庫（飯樋）完成
7.8	共済優績 全共連表彰（飯曾）	9.16	農協の日設定
39年		12.26	農協管理事務所（深谷）完成
7.30	相馬草野畜産農協を合併（大館）	12.26	加工トマト集荷所（飯樋）完成
40年		45年	
1.22	農協合併促進協議会発足	2.16	村生乳販売1億円突破祝賀大会
5.10	合併促進協議会と大館・飯曾両農協役員合同会議（基本問題協議）	4.27	出資金組合員戸当たり10万円運動展開
9.30	合併促進協議会（各農協合併協議促進）	7.28	ヒョウ被害7800万円
10.11	個別協議会（大館）	46年	
10.12	個別協議会（飯曾）	3.15	農青連設立総会
10.23	合併促進協議会主催 農協合併委員会（基本方針策定と指導機関との協議）	4.26	家畜市場完成
11.29	100人による合併協議会（大館・飯曾）（～30）	5.11	初セリ市場開催
12.9	合併促進協議会と大館・飯曾両農協役員	8.30	台風23号大被害2億6900万円
		9.20	飯樋事業所完成
		12.25	農協整備協議（大館開拓農協合併の件）
		47年	
		5.1	草野事業所 管理事務所に統合
		7.17	給油スタンド（本所）完成

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
48年		53年	
5.30	花卉部会結成	2.13	花卉球根貯蔵庫完成
7.26	マッシュルーム部会結成	4.28	米検査等級規格1～3等級変更
7.27	購買事務電算化スタート	7.28	モチ米生産部会結成
9.20	購買倉庫・車庫完成	11.11	農業倉庫5号下屋完成
49年		12.20	農薬倉庫(本所)完成
3.4	肉用牛多頭化部会結成	12.25	加工トマト・インゲン販売1億円達成祝
4.3	モチ米栽培開始	54年	
4.13	集乳業務タンクローリー車に改善	7.7	第1回夕市(Aコープ)開催
5.1	機構改革(4課制)石橋地区窓口本所扱い開始	8.17	為替業務用テレックス導入
8.2	異常低温 水稻にイモチ病多発	55年	
9.11	家畜市場に電光掲示方式導入	3.16	和牛改良組合婦人部設立総会
10.12	臨時総会(加工トマト緊急生産対策補助事業)	4.2	酪農同志会 総理大臣賞受賞
50年		8.11	異常天候対策会議
1.30	大根部会結成	9.2	農協五連会長 冷害視察来訪
2.5	加工トマト部会結成	9.4	農林水産省 冷害視察来訪
2.25	大館開拓農協と合併協議	9.9	知事 冷害視察来訪
3.26	大館開拓農協と合併予備契約締結	9.13	農林水産大臣 冷害視察来訪
3.31	加工トマト集荷所(本所)完成	11.20	農協だより編集委員会設立
4.6	移動購買事業開始	11.27	臨時総会(冷害による借入限度額増額)
4.15	椎茸乾燥機2基取得	12.16	給油スタンド(飯樋)完成
5.29	葬祭・祭壇利用事業開始	12.17	大冷害 被害額15億2400万円 作況指数8 水稻共済金7億6500万円
7.1	大館開拓農協を吸収合併	12.24	豪雪 建物・山林に大被害
7.1	森林組合椎茸部門を農協一元集荷に移行	56年	
11.10	家畜市場休憩所完成	1.18	加工トマト育苗ハウス完成
51年		1.20	農協利用期中還元開始
4.13	和牛改良組合設立	2.18	東北北海道肉用牛経営コンクール最優秀賞受賞
7.31	婦人部設立総会	4.19	酪農部会 東日本ホルスタイン共進会1等入賞
9.30	ライスセンター(宮内)完成	5.13	第1回乾しいたけ品評会
11.10	7月異常低温長雨 被害10億8000万円 作況指数40	5.31	晩霜 農作物に大被害
11.18	合併10周年記念式典	7.13	オンライン業務開始
12.8	家畜市場 自動電子セリ機稼働	12.12	農協青年の主張発表県大会 最優秀賞受賞
12.30	車庫兼集荷所(飯樋)完成	12.31	年末貯蓄目標50億円達成
52年		57年	
1.10	県内農協から救農飯米23俵贈呈される	1.20	農機具修理センター(飯樋)完成
2.28	種牛返納 凍結精液集配布保管ボンベ6基配置	1.23	年金友の会設立総会
4.1	和牛改良組合認定される(県内27番目)	3.1	自走モア-20基取得 行政区毎配置
10.1	米包装を樹脂袋に変更	4.1	農協だより100号発刊
10.4	生産部会対抗ソフトボール大会(肉用牛多頭化部会優勝)	5.27	貯蓄推進全国表彰 最優秀賞
10.10	ライスセンター(深谷)完成	7.2	Aコープ店 全国表彰
11.11	Aコープ完成 開店	8.1	台風 大被害
		10.1	飯館村農協子牛互助制度制定
		10.1	農協宅配事業開始

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
10.30	第1回農協祭	6.23	アスパラ部会設立
12.14	和牛部会 福島県日本農業賞受賞	8.5	野菜集荷所（八木沢・蕨平）完成
58年		8.8	家畜市場 電子セリ機更新
2.1	米穀小売販売業許可	8.8	第一回夏祭花火大会
2.24	養蚕婦人部 経営発表全国大会最優秀賞受賞	63年	
2.28	第1回農業振興大会	1.11	購買オンラインスタート
4.12	農産物市況テレホンサービス開始	6.10	バックホー取得
6.9	降電害 農作物に大被害	6.20	ライスセンター（関沢）完成
8.13	信用事業第2土曜日休業開始	8.1	不順天候対策会議
12.18	農青連 組織活動発表県大会最優秀賞受賞	8.3	衆議員 不順天候農作物現地視察
59年		8.3	県会議員 不順天候農作物現地視察
5.30	生産組合長会結成	8.25	農協五連副会長 不順天候農作物現地視察
6.26	和牛改良組合と和牛部会が合併	9.13	経済連専務 不順天候農作物現地視察
9.10	第1回組合長杯争奪ゲートボール大会	9.16	自民党県議団 不順天候農作物現地視察
9.26	ホーレン草パイプハウス栽培導入	9.24	知事 不順天候農作物現地視察
11.5	A T M稼働	元年	
12.1	給油所P O S給油（本所）開始	1.7	学校給食米飯提供陳情（村長・教育長）
60年		2.16	農青連 全国意見発表大会 優秀賞受賞
2.17	農青連 出合いの広場開催	6.4	第1回海外研修（組合員・役員・職員）
5.24	ミートバンク事業開始	6.19	A T M開通式（事業所）
7.20	イモチ病共同防除機4台取得	8.31	婦人部 ハンガリー舞踏団交流会
7.24	酪農青婦部 全国酪農経営発表大会最優秀賞受賞	10.20	農産物加工処理施設・Aコープ店舗落成 開店式典
8.19	本所改装工事完成	12.6	肉用牛部会 東北地区肉用牛経営コンク ール発表大会優秀賞受賞
8.24	第一回牛肉フェスティバル開催	12.6	白石葉タバコ収納取扱所存続陳情
11.14	スタンド・L P G貯蔵庫改装工事完成	2年	
61年		1.8	加工施設 学校米飯給食炊飯供給開始
2.21	全国家畜人工受精師優良技術発表大会受賞	6.11	C D（役場）開通式
3.10	オフコン稼働	7.1	シンボルマーク誕生（萌える大地イータ テ）
4.11	第20回通常総会（合併20周年特別決議）	7.2	食材宅配事業出発式
6.20	事務所等警備保障委託開始	7.14	営農相談センター完成
8.7	野菜集荷所（長泥）完成	9.4	わさび栽培研究会発足
8.7	第一回青空市場（東京）	10.18	ふるさと自慢うまいもの祭り 飯館牛出 品（～23）
8.10	研修用マイクロバス購入	3年	
9.13	デスクプラウ6か所配置	7.1	日計オンライン稼働
9.16	ライスセンター（松塚）完成	8.22	婦人部 組織活動発表北海道東北大会最 優秀賞受賞
9.21	第1回婦人部支部対抗バレーボール大会	12.4	農協宅配 切り餅発送
62年		4年	
1.12	農青連 組織活動発表東北大会最優秀賞 受賞	3.23	旅行業代理店認可
1.17	合併20周年記念式典	10.23	故浦住定雄組合長 J A 浦住家合同告别式
5.11	村農林業センターへ職員出向	5年	
5.30	地域営農推進協議会設立	1.29	相馬地方 J A 合併研究会設立総会
6.12	ライスセンター（比曾）完成		

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
4. 5	J A 飯館村開発トマトジュース試飲会	9. 6	J A トマトジュース元気回復朝一番発売
6. 1	ミートプラザオープン式	9.16	知事 冷害不稔現地視察
7.22	第3セクター飯館楽園ステーキハウス開店	12. 1	冷害被災農家飯米供給開始
8. 4	異常気象対策会議	6年	
		1.14	A T M (新役場庁舎) 稼働

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組 合 員

()は戸数

正 組 合 員		准 組 合 員		合 計	
個 人	法人	個 人	団体	個 人	法・団
1,286		260	50	1,546	50
(1,284)		(210)		(1,494)	

2 役員及び参事

代表理事組合長	理事 佐藤 美知夫
志賀正男	理事 開沼 幸一
理事 菅野永徳	理事 (欠員)
理事 松林茂	
理事 三浦国広	代表監事
理事 原田正一	中井田 忠
理事 高橋孝雄	監事 佐藤 典雄
理事 花井秀男	監事 赤石沢 備
理事 下枝直一	監事 大滝 建一郎
理事 高橋 則雄	
	参事 斎藤 多喜夫

3 職 員

男	女	計	うち営農指導員	うち生活指導員
49	11	60	9	1

4 協力組織

名 称	代 表 者	会 員 数
生産組合	大谷 友孝	1,284
農青連	佐藤 建夫	72
婦人部	会田 ツタ枝	322
貯蓄推進委員会	大内 久雄	44
年金友の会	赤石沢 式彦	800

5 生産部会

名 称	代 表 者	会 員 数
酪農部会	菅野 栄夫	31
酪農部会婦人部	長谷川 佳代子	30
和牛改良組合	菅野 義人	550
和牛改良組合婦人部	佐藤 時子	90
肥育部会	三浦 太志	11
モチ米生産部会	斉藤 政行	498
いんげん部会	菅野 岑	187
ハウレン草部会	佐藤 広明	134
きゅうり生産部会	長谷川 侑広	23
チェリートマト部会	佐藤 博	24
加工トマト部会	佐藤 八郎	39
アスパラガス部会	佐藤 泰洋	10
花卉生産部会	菅野 稔	68
シイタケ部会	高橋 繁文	35
養蚕部会	会田 征男	22
野菜研究クラブ	赤石沢 忠則	13
わさび研究会	菅野 今朝男	9

6 主な施設

名 称	所 在 地
本所事務所	深谷字二本木前27-1
飯樋事業所	飯樋字町56
営農相談センター	深谷字二本木前27-1
Aコープ	草野字大師堂1
農畜産物処理加工施設	〃 〃
ミートプラザ	〃 〃
農畜産物加工倉庫	〃 〃
農機具修理センター	飯樋字町56
農業倉庫1号	草野字本町235
〃 2号	〃 〃
〃 4号	白石字町153
〃 5号	飯樋字町56
〃 6号	深谷字二本木前27-1
家畜市場	飯樋字町162
ガソリンスタンド	深谷字二本木前27-1
〃 〃	飯樋字町56

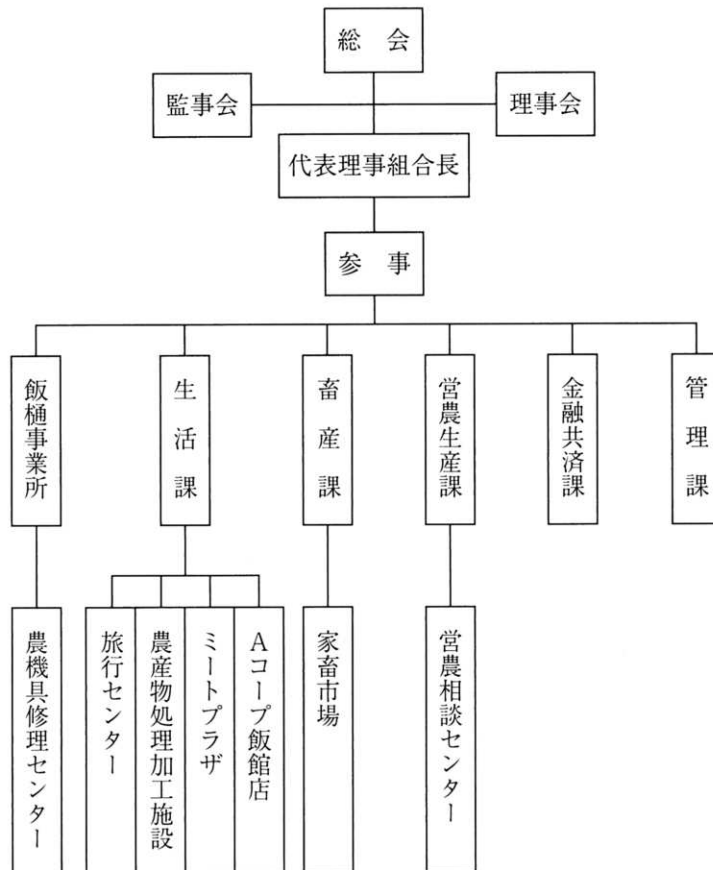
購買倉庫	深谷字二本木前27-1
〃	飯樋字町56
農薬倉庫	草野字本町235
車庫	深谷字二本木前27-1
農機格納庫	〃 〃
〃	〃 〃
集荷所	飯樋字町56
〃	深谷字二本木前27-1
予冷庫	飯樋字町56
〃	〃 〃
ライスセンター	深谷字二本木前27-1
〃	草野字大北230
〃	深谷字原前60-1
〃	松塚字中迫216-2

7 歴代組合長・常勤理事・参事

組 合 長			
41～48	菅野 正	63～4	浦住 定雄
48～51	浦住 定雄	4～	志賀 正男
51～63	渡辺 汝		

参 事			
54～55	大内 長雄	63～	斎藤多喜夫

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

飯曾村農協			
23～26	寺岡 広見	26～29	大谷 清

飯曾村比曾農協	
23～29	中島 好

石橋農協	
23～31	相良 栄

飯曾農協			
29～33	星 吉雄	36～41	菅野 正
33～36	山田 健一		

大館農協			
23～26	高橋勇治郎	27～32	原田 直清
26～27	菅野 知一	32～41	星 義継